

迎春

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

年頭に当たって

高山村長

後藤 幸三



新年明けましておめでと
うございます。

村民の皆様には、ご家族お
揃いで新春を健やかに迎え
のことと、心よりお慶び申し
上げます。

昨年は公私共に、大変お世
話になりました。心より感謝
を申し上げますとともに、本年
も引き続き、宜しくご指導を
お願いいたします。

昨年を振り返ってみますと、
毎年のように繰り返し発生し
ている大きな災害が思い起こ
されます。4月には熊本では、

震度6強が2回、震度6弱が
3回の大きな地震に襲われ、
甚大な被害が出ました。8月
下旬には、台風の豪雨により
東北・北海道に大きな水害を
もたらしました。また9月には
鳥取県を襲った震度6弱の
中部地震が発生いたしました。
今年こそ平穏無事であること
を心から願いたいと思います。

明るいニュースではリオオ
リンピックで過去最高のメダ
ル獲得数、大隅良典さんが日
本人25人目のノーベル賞を受
賞したことは日本人として大
きな喜び、誇りであり、多大
な勇気をいただきました。

さて、村では、ふるさと創
生事業、中心地づくり基本計
画に基づき、道の駅周辺整備
事業の一環として緑地公園、
児童遊具、中高年向けの健康
遊具、展望台四阿、遊歩道な
どの設置を29年度内完成に向
けて進めております。その後
の周辺整備として、小規模で
はありますが、宿泊施設、農
産物加工所、そばレストラン、
ドッグラン等の事業構想をし、

交流人口の増に繋げていけた
らと考えております。

東日本大震災で原子力発電
所が破壊された煽りを受け、
自然エネルギーを利用した、
ソーラー発電所やバイオマス
発電所の開発が、急速に進み
ました。村内に於いても原地
区で26メガワットのメガソー
ラーが稼働開始し、今後は本
宿、山室、熊野、関田地区の
4箇所に計画があり、これら
も観光や教育に繋げていけれ
ばと考えております。

さらに、パース大学が平成
28年度限りで撤退しますが、
ここに学校法人日本アカデミ
ーの開校が見えてまいりまし
た。国内外の学生を対象にお
もてなし学科、調理学科、日
本語学科を開設し、卒業後に
ついては、日本国内でも就職し、
あるいは大学、福祉専門学校
へ進み、近い将来それぞれの
分野で活躍していただけるも
のとして期待するところであ
ります。村民の皆様の特段の
ご理解とご協力をお願い申し
上げたいと思います。

中学2年生のホームステイ
事業では、今年度で17回目を
数え、派遣生徒数も902人
となりました。引き続き相互
交流を促進し、国際理解を深
めていきたいと思ひます。話
せる英語を目指してALTを
2人体制として英語教育の充
実を図り、高山村の教育に魅
力をつけていきたいと考えて
おります。

福祉については、昨年介護
保険法の改正が行われ、要支
援1及び2が介護保険のサー
ビスからはずされ、生き生き
サロンのな事業を拡張充実さ
せていく取り組みが進行中で
あります。

村にとっては、上信道への
アクセス、インフラ整備とし
ての県道36号線の改良整備が
喫緊の課題ですが、現在渋川
土木事務所において作業を進
めていただいているところで
す。また、観光、通勤・通学
や医療機関へのアクセス道路
としても重要な位置づけです
ので、一日も早い完成を目指
し努力いたします。



村民皆さんとともに、オール・高山で元気な高山村、「笑顔で輝く高山村」を作りたいと考えております。

結びに、今年1年が皆様にとつてすばらしい年になりませうよう心よりご祈念申し上げます。年頭の挨拶といたします。

年頭にあたって

高山村議会議長

有馬 嘉太郎



明けましておめでとうございます。

村民皆様には、平成29年の新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、議会活動に對しまして、ご理解ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、大きな自然災害がありました。熊本地方では、4月14日夜、さらにその28時間後の16日未明ともに震度7を観測する地震が発生しました。過去に日本国内で震度7を観測したのは、阪神淡路大震災、新潟中越地震、東日本大震災の3回のみで、今回の熊本地震は4例目、5例目にあたるということですので。「天災は忘れた頃にやってくる」ということばがありました。それが通用しない時代になったということでしょうか。台風による水害も岩手県、北海道で大きな被害が出ました。防災専門家の先生に話を聞く機会があり、「地震、集中豪雨は何時何処で起きても不思議でない」と言っております。災害に対しては、常日頃から備えが必

要であるということ。改めて教えられた年でもありません。

明るい話題では、リオデジャネイロオリンピックでの日本選手の活躍、また3年連続、日本人として25人目のノーベル賞に単独で大隅教授が受賞するなど、日本人にとつて大きな誇りとなりました。高山村におきましては、原地区における太陽光発電所も昨年10月から稼働を始め、今後は用地の賃借料と固定資産税の新たな収入を生むこととなります。

人口減少がもたらす課題解決を図るため、本村でも地方版「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。向こう5年間の基本目標と主要施策を地道に実行に移して行くことが求められております。その一環として、一大プロジェクトである中心地活性化の拠点としての緑地広場の造成工事も進み、今年中には

ユニークな「あずまや」「バリアフリー遊歩道」「遊具」を備えた児童公園などが整備され、地方創生にも適う定住促進や交流人口の増加と既存の施設との相乗効果も大いに期待できると思えますし、完成が待たれます。

民俗学者の柳田国男は、「美しい村など、はじめからあったわけではない。美しく暮らそうという村人がいて、美しい村になるのである」とのことばを残しています。その意味を噛み締めながら、本年も議員一同諸課題に取り組み所存ですので、変わらぬご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

結びに村民皆様にとつて今年一年がより良い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

